

令和4年度第1回岩手県地域公共交通活性化協議会 議事要旨

1 日時

令和5年3月29日（水）10：30～12：00

2 場所

盛岡市（岩手県盛岡地区合同庁舎 8階大会議室）

3 会長の選任

互選の結果、岩手大学理工学部 教授 南 正昭委員が会長に選任された。

4 主な議事内容

- (1) 地域公共交通活性化再生法と地域公共交通計画について
- (2) 岩手県地域公共交通網形成計画の施策評価について
- (3) 次期地域公共交通計画の策定の方向性について
- (4) 今後の進め方について
- (5) その他

5 主なご意見等

(3) 次期地域公共交通計画の策定の方向性について

発言者	発言内容
委員	<ul style="list-style-type: none">・ 国の法改正により、地域一括協定を結ぶなど、新しい交通体系を考えることができるようになった。・ 地域の皆様がどういう移動を求めているのかを踏まえて、移動需要を満たすものを創っていくことが今回の計画策定の目的となると思うので、バス事業者との連携も含め、維持することを目的にするのではなく、これからの新しい時代にあった交通体系を考えていく時期ではないか。
事務局	⇒ 令和7事業年度（R6.10～R7.9）から、バス事業者が国庫補助の交付を受けるためには、法定計画への路線位置づけが必要となることから、令和5年度中に計画を策定し、対象路線を位置付ける必要がある。時間的な制約もあるため、まずは、ビッグデータを活用しながら、現在の交通体系を前提としたバス路線を中心とした計画としていきたいと考えている。

発言者	発言内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス事業者は乗務員不足が深刻であり、今のままであれば、来年はこの路線、再来年はこの路線を廃止せざるを得ないといったシミュレーションを事業者に協力してもらいながら実施した方がよい。 ・ 今の便数のまま維持する場合、また、乗務員が高齢化したときに、どれくらいの路線が維持できるのか、シミュレーションをしながら検討してほしい。 ・ 乗務員確保のため、事業者任せではなく、県含め自治体一緒になって大きな対策を計画に記載してほしい。 ・ 幹線路線と広域バス路線といった市町村を跨ぐ路線が県計画の対象というのがこれまでの位置づけだったと思うが、そうは言っていられない状況で、幹線交通と支線も含め、県立病院や県立高校の配置計画等も踏まえて交通ネットワーク体系を描いてほしい。観光交通も重要で、インバウンド客も公共交通を使った個人旅行をしているので、観光交通も含めてネットワークを改めて描くことが必要。 ・ 鉄道とバスの連携を検討してほしい。協議運賃については、三鉄とバスの共通定期券など、交通ネットワーク全体として生き残っていくことを盛り込んでいただきたい。 ・ エリア一括協定運行は非常に期待しており、市町村単位となると思うが、市町村が柔軟に対応できる支援を県が計画に位置付けてほしい。
事務局	<p>⇒ 運転士不足等で長時間労働が常態化している等聞いている。来年度、計画策定の中で乗務員不足や選択と集中、鉄道とバスの共通定期、エリア一括運行に対する支援など、様々な意見について、関係者へのヒアリングやバス路線活性化検討会で課題や要望を把握し、計画策定の中で検討していきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再構築協議会に国の補助があるが、まだまだ事業者、自治体の負担があるので、全額を国から支援を受けられるよう、要請を行っていただきたい。
事務局	<p>⇒ 国に対しての要望活動を行い、必要な措置がされるよう検討していきたい。</p>

発言者	発言内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の法改正で地域の関係者の連携と協働（共創）が入ってくる。事業者単独ではやっていくことが厳しいという状況の地域もある中で、事業者間や自治体、住民、観光関係、医療福祉など交通以外の分野と連携し、取り組んでいくことを県計画に盛り込んでいただきたい。 ・ 路線の維持・確保、活性化に加えて、それをどのように利用していただくかといったことや、情報発信、技術の活用も積極的に検討し、盛り込んでいただきたい。また、ビッグデータの活用により、これまで見えてこなかった潜在的なニーズがどのように計画に反映されていくのかといった点に期待をしているので、今後の協議会で御説明いただきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域なりにイベント、施設整備や、十分に生かされていない観光資源があり、そういったものを結びつけるものとして地域公共交通をつくっていくことで、道を開ける手立てを考えていきたいと考えている。今回の開催趣旨を踏まえて、厳しい状況の中で扉を開ける策がないかを探していきたいと考えており、時間的な制約もあり、一度に全てはできないが、協力いただきたい。